

2026年3月17日
古河機械金属株式会社

ユニック部門：地元の工業高校で出張授業を実施 ～ものづくり技術の理解と安全意識向上を目的とした進路ガイダンスの一環として～

当社（本社：東京都千代田区、社長：中戸川 稔）グループの中核事業会社で、ユニック部門を担う古河ユニック株式会社（本社：東京都千代田区、社長：菅野 悌二）は、ユニッククレーンのマザー工場である佐倉工場の地域社会への取り組みとして、千葉県立京葉工業高等学校(千葉県千葉市稲毛区)において、機械科の1年生を対象に、ものづくり技術の理解と安全意識向上を目的とした出張授業を実施しました。

古河ユニック佐倉工場では、今後も、地域の児童・生徒のキャリア教育を目的として、業界理解や職業研究を支援し、将来の進路選択の一助となる学びの場を積極的に提供していきます。



授業の様子①

佐倉工場社員による出張授業について

今回の出張授業は、1月15日に千葉県立京葉工業高等学校で開催された「第1学年 進路ガイダンス」の一環として実施しました。対象は機械科1年生40名で、本校OBを含む古河ユニックの若手社員が授業を担当しました。学校で学んでいる技能が実際の製造現場でどのように活かされているかを具体的に示すとともに、職場における安全管理の重要性を説明し、「安全第一」の考え方を伝えました。

授業では、生産技術を担当する社員（2年目）が、ブームの溶接や溶接ロボットの仕組みについて解説しました。また、油圧部品の機械加工を担当する社員（5年目）が、部品加工の方法や精度、マシニングセンターの概要を紹介し、京葉工業高等学校のOBとして、仕事への向き合い方ややりがい、基本的な技術を学ぶ学校の授業の大切さについて講話を行いました。



授業の様子②



授業の様子③

〈問い合わせ先〉

・お知らせに関して
・出張授業について

古河機械金属株式会社
古河ユニック株式会社

経営企画部広報・IR課
管理部総務課

TEL：03-6636-9501

TEL：043-485-5111



ユニッククレーン

ユニッククレーンは、「吊る・積む・運ぶ・作業する」という一連の作業をトラック一台で可能にした省力機械です。ニーズに合わせたブーム段数やクレーン容量など小型から大型トラック用まで豊富なラインナップを揃えています。更に、安全性を重視したモデルや環境に優しいエコモデル、複雑な操作を容易にする液晶ラジコンなど、先進的な機能を備え、国内シェアは50%を誇ります。



【補足資料】

■会社概要

【古河機械金属株式会社】（東京証券取引所プライム市場 証券コード 5715）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目6番4号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：中戸川 稔

事業内容：鉱山開発で培った技術を受け継ぎ、現在では機械事業3部門（産業機械部門、ロッドドリル部門、ユニック部門）と素材事業3部門（金属部門、電子部門、化成品部門）を展開しています。

創業：1875（明治8）年8月

設立：1918（大正7）年4月

資本金：282億818万円

従業員数：〈連結〉2,908人 〈単独〉205人 [2025年3月31日現在]

WEBサイト：<https://www.furukawakk.co.jp>

【古河ユニック株式会社】（古河機械金属株式会社100%子会社）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目6番4号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：菅野 悌二

事業内容：1961年に国産初の車両搭載型クレーン「ユニッククレーン」を開発。ユニッククレーンは、トラックに搭載することで「吊る・積む・運ぶ・作業する」の一連の作業を効率化した荷役機械です。現在ではユニッククレーン、ミニクローラクレーンなどの製造・販売を行っています。

設立：1946（昭和21）年4月

資本金：2億円

従業員数：480人 [2025年3月31日現在]

WEBサイト：<https://www.furukawaunic.co.jp/>